

活動報告

「発展途上地域、アジアのエコ改革：アジアでのEICの意義」

アジア工科大学院教授
C. ビスバナサン



(事務局訳：要約)

私たちはIGESと協力して2年間プロジェクトを行ってまいりました。また、皆様方にはアジア工科大学がこのプロジェクトのコーディネーションを3つの国、中国、インドネシア、スリランカの組織と協力して行っていることをお伝えいたします。後ほど、各国の状況とEICの現状について報告をしていただきます。私からは、アジアのシナリオ、アジアの問題、環境劣化の問題、何が一番大きな問題か、なぜエコ・リストラクチャリング(再構築)が必要なのか、なぜ持続的開発が必要かということをお話しいたします。

二、三十年前のアジアの多くの地域では、美しい景色にあふれていましたが、徐々に消えていきました。その大きな理由の一つは、環境の劣化です。それには多くの要素が絡んでいます。大気汚染、あるいは気候変動、食糧汚染、不衛生、有毒化学物質、工場排水、さまざまなことが影響しています。多くの原因があり、多くの人に関係しています。工業も関係しています。

産業が環境悪化にどう関係しているかについて、アジアの成長との関係を見ていきます。(P33,slide5) 国連エスキュープのデータから言えることは、アジアの国々は工業生産とともに大きく成長してきたということであり、これは非常に重要なことです。ここで成長率が落ちていきます。これは経済危機のためです。また、環境、資源の問題から同じようなことが起きるかもし

れません。成長率の回復に伴い、より大きな成長が予想され、そのため環境面にも大きな影響があります。

我々は、成長率に伴う大きな環境問題に用意ができているのでしょうか。アンブモリ研究員がおっしゃったように、アジアは人口密度が非常に高い地域です。これは地球平均の約2倍になりますが、人口1人当たりの農業生産性は世界平均と比べて非常に低いのです。つまり人口は多いけれども、農業生産率や資源は少ないということです。このような傾向が続けば、あるボーダーラインを越えてしまいます。そうすると、このような成長をこれから続けることができなくなってしまいます。2100年には4つの地球が必要というような事態になるかも知れません。新しい資源が必要となるわけです。

インドは月にロケットを送ることに成功しました。新しい資源を求めて宇宙に行くという競争が始まるかもしれません。新しい資源を地球以外から調達していかなければならなくなるかもしれません。それは不可能かもしれませんから、成長のパターンを変えていかなければなりません。再構築が必要なのです。

アジアの主な環境問題として気候変動があげられます。アジアは温室効果ガスの排出に大きな影響を持っています。とりわけ大きな二つの国はインドと中国です。アジアは排出を抑えていかなければならないのでしょうか。答えはイエスです。気候変動は現実です。アジ

アがその大きな原因となっているのです。

次の問題は、固形廃棄物です。インドネシアの西ジャワに、長さ300kmのチタルム川があります。全長に渡ってたくさんのゴミが浮いているのが見ていただけだと思います。川の周辺には約500もの繊維工場があり、そこから有害化学物質や廃棄物が川に捨てられています。その結果、魚を捕ることも水を汲むこともできず、地元コミュニティはたくさんの問題に直面しています。また同じく西ジャワに位置する湖でチタルム川支流から水が流れ込んでいるサグリン湖には、西ジャワ最大の発電所をフランスが建設しました。当初700メガワットのキャパシティが可能であり、それを2倍の1,400メガワットにする予定でしたが、チタルム川が抱える問題により、不可能となりました。このように、環境問題は社会・健康問題にもつながり、経済に重大な損害を与えます。

次に、生物多様性という観点から例を挙げてみましょう。最近、アジアの人口増加による地球の急速な変化が見られますが、これは人間とほかの生物体との間で資源の奪い合いが起こることを意味します。エコシステムの変化が見られます。過度の乱獲や、生息地の劣化のような現象が海でも森でも起こればたちまち生物多様性の重大な衰退が見られるでしょう。

どうしてこのような問題が大切なのか考えましょう。私たちは、地球が無限の資源だと思っています。また、地球はどんなゴミでも飲み込んで、何でも消化できていると思っています。しかし、それは事実ではありません。どこかで『しきい値』があるはずです。すなわち、環境というのは有限であるということを考えなければなりません。地球もそれ自体が有機体なのです。ですから、産業に関する問題の解決策に

焦点を当てていかなければなりません。

そのためにEIC、あるいはエコ・リストラクチャリングが必要なのです。人間を自然のサプライチェーンのもっと適切な場所に位置づければなりません。また、我々のシステムとプロセスを従来の産業パターンから持続可能なパターンに変えていかなければならないのです。さらに、我々の文化、価値観を持続可能な発展に向けて転換していく必要もあります。

現在の中国、インド、タイ、ベトナム、スリランカでは、森林伐採、大気汚染、有害物質の廃棄などが行なわれています。また、自然災害の津波や洪水も増えてきており、乾季の期間も長くなっています。

そのひとつの解決方法としてエコ・リストラクチャリングがあります。これは、経済面、環境面、社会面の3つから考えていきます。経済面では、都市農村境界地域におけるビジネスの創出、雇用機会の増加に注目しなければなりません。環境面ではただ汚染のコントロールをするだけではなく、資源の適切な管理、資源効率を考える管理が必要です。その他のエネルギー、資源をもっと有効的に活用していかなければなりません。さらに、アジアの国々において社会面で最優先して行われるべき開発のゴールは貧困の解消であり、ジェンダー問題の解消とも関連付けていかなければなりません。技術の導入は必要です。しかし、アンブモリ研究員がおっしゃったように、その中の、政策による方向づけが一番重要なのです。

その中で、アジア工科大学AITがどのような役目を果たしているか。アジア工科大学を中心として、アジア開発銀行、国連環境計画、アジア太平洋地域センター、国連アジア太平洋経済委員会などが結び合い、廃棄物を減らし、

リサイクルやリユースを進めるという活動を協力して行っています。我々はさまざまな情報を収集しています。そして、ネットワーク、ウェブサイトなどを通じて、知識を普及しています。これは環境に対する異なる考え方、異なるアプローチ、3R活動を通して環境問題に貢献できるということを示しています。

都市農村境界地域は産業の環境面の影響から見ても非常に重要です。大企業は都市部に集中していますが、人口が多いのは農村部で、資源が豊富なのも農村部です。都市への人口の流入を止めるためには、都市農村境界地域に注目し適切な経済活動を発展していかなければなりません。そこで、私たちの研究で焦点を当てているのがバイオ産業の開発なのです。



タイの郊外、バンコクの近くにある地域が1つの例です。ここでは養豚、養鶏、それから稲作といった3つの活動を行っています。10年前では、生産物が直接バンコクに運ばれていました。このような農村地域からの商品は都市に運ばれ、都市で付加価値がつけられました。つまり都市では価値が高くなるのです。しかし同時に、汚染も都市の中でつくられているとも言えます。そのため、農村で生産している農民たちは利益を得ることができず、都市部ではよ

り高い利益を得ることができましたが都市の環境は悪化していったのです。

都市と農村部をリンケージさせることは可能なのでしょうか。つまり、この2つの間の地域を結ぶところに、付加価値をつける何かを置くことが可能であるかということです。そうすれば都市での汚染は減少します。また、農村部に対しては資本が投入されます。新しい産業が起きる1つの例ですが、バイオマスベースの産業などが、農村と都市の間の地域に立地する可能性があります。そのような新しい産業を起こすことができます。

バイオ産業は、生の素材からバイオ産物を生みだし、全ての段階で廃棄物が発生します。その全ての過程を都市部に集中させるのではなく、農村部で担うことによってミクロスケールの産業を創出することができます。ミクロ経済・地域経済の役割としては貧困の解消・雇用の創出、とりわけ女性の参画を可能にすることです。

アジアにとってエコ・リストラクチャリングと統合的で持続可能な開発が必要です。ビジネスの通常の機能だけでなく、箱の外から見る視点が必要です。とりわけ、アジアにとって社会的な側面を見逃すことはできません。広い視野に立って、伝統産業だけに大規模な投資をするべきではありません。なぜなら貧困の解消といった社会的ダメージの解決ができなくなるからです。また、いかなる開発計画を持っていたとしても地域の雇用を重視する必要があります。マクロ経済だけに注目するのではなく、ミクロ経済も考えなければなりません。

アジアの国々の多くはミレニアム開発目標を持っています。そのうちの3つの目標は、貧困の解消、男女平等、そして環境的持続可能

性です。適切なエコ・リストラクチャリングのプログラムにはこれら3つの目標が含まれています。経済の安定によって、副次的に多くのミレニアム開発目標も生まれる可能性があるのです。エコ・リストラクチャリングを推進するためには一貫した適切な政策介入が必要です。我々は技術こそが唯一の解決策であると信じがちですが、私はそうは思いません。技術は正しい政策手法と調和しなければいけないと思います。

私たちは今、2008年の10月に生きているわけですが、このデータによりますと、9月の時点で、私たちは今年使うはずの資源をすべて使い切っています(P42,slide24)。ですので、今年のうちに来年の資源も借り入れてこななければいけないという状況に陥っています。2007年も10月6日に、2008年度の資源に手をつけなければいけないような状況でした。来年

の資源から、翌年の資源から借りてくるというこの状態はいいサインなのでしょうか。私たちが計画している、生活にとっていい結果をもたらすサインでしょうか。きっとそうではないと思います。私たちは強欲になりがちです。必要以上に消費する傾向があります。マハトマ・ガンジーの言葉に次のようなものがあります。「Earth provides enough to satisfy every human being's need. Certainly, but not every man's greed(欲)」

最後に、タイについて少しお話しします。タイは今、自給自足の地元経済の改革を行っている途中にあります。これは国王のイニシアチブによるものです。村による自給自足の改革です。このエコ・リストラクチャリングは、バイオ産業をキーとして焦点を当てたものですが、これは国王の意にもかなうものだと思います。

ご清聴ありがとうございました。